



桜美林大学大学院 2026年度Ⅰ期入試
心理学実践研究学位プログラム 臨床心理分野
筆記専門試験 問題用紙

受験番号	氏名

- * これは問題用紙です。答えは解答用紙に記入してください。
- * 用紙が配布されても合図があるまで開かないでください。
- * 試験中、監督の許可なしに、部屋の外に出ることはできません。
- * 不正行為に対しては厳正に対処します。
- * 試験終了後、問題用紙も回収しますが、メモなどは消さなくてもかまいません。

I. 以下の文章を読み、カッコ内に適切な言葉や人名を入れなさい。

1. 高齢者に対して発生しやすいと思われる (a.) とは、養護者や親族、あるいは介護サービス提供者が高齢者の財産を不当に処分することや高齢者から不当に財産上の利益を得ること等をさす。
2. 外傷性脳損傷や脳血管障害等により脳に損傷を受けて、その後遺症等として生じる記憶・注意・社会的行動などの認知障害等をさし、会話がうまく噛み合わなかったり、段取りを付けて物事を行ったりすることができない等の症状があるものを (b.) という。
3. 児童が犯罪の被害者、あるいは目撃者となった際に、心の傷を大きくしないように、また記憶や話の内容が変わっていつてしまわないように、関係機関が共同して行う、暗示や誘導の少ない事実の聞き取りを (c.) という。
4. 自ら介護・医療サービスの利用を拒否する等により、社会から孤立し、生活行為や心身の健康維持ができなくなっている状態を (d.) といい、孤立死に至るリスクが案じられている。
5. Cooley, C.H. は、家族、子どもの遊び仲間、大人の場合には近隣集団などを (e.) と呼び、人間の社会性を形成し、その理想像を教えるうえで基本的な役割を持つことを強調している。
6. トレイル・メイキングテスト、線分抹消検査、PASAT (Paced Auditory Serial Addition Task) などは、(f.) を評価するための検査である。
7. 組織的観察法は、時間見本法、場面見本法、(g.) に大別される。
8. Adler, A. は、劣等感を克服して、自分の弱点を補おうとする心の動きを (h.) と呼び、その努力の向け方によって、現実には適合的である場合と、不適応になる場合について、説明している。
9. ある子どもが宿題を終わらせると親の叱責が止まるため、宿題をする行動の頻度が増えた。この「嫌悪刺激が消失することによって行動の頻度が増加した」という現象のことを (i.) という。
10. 心身の緊張や不安を和らげ、副交感神経を優位にしてリラックスした状態を意図的に作り出す技法や状態を (j.) という。

11. 小・中・高等学校において、通常の学級に在籍しながら、障害や特性に応じて学習上や生活上の困難を改善・克服するため、一部の指導を別の教室で受ける特別支援教育の形態を（k. ）という。
12. データのばらつき具合を示す指標で、各データと平均値との差を二乗して平均した値を（l. ）という。
13. 心理職がクライアントに対して、専門的援助関係と同時に友人関係や金銭的な関係など複数の関係を持つことを（m. ）と呼ぶ。
14. 認知バイアスの一つで、自分の最初の判断に引きずられることを（n. ）効果という。
15. Chomsky, N. が提唱した、人間が生得的に持つ普遍的な文法構造を説明する理論を（o. ）という。
16. 自殺予防や被災者支援など、地域に出向いて行う援助を（p. ）と呼ぶ。
17. 記憶に関する（q. ）効果は、学習直後に遅延を置くと消失する。
18. 体内時計をつかさどる時計中枢は（r. ）の視交叉上核に存在すると考えられている。
19. 強迫症に対する心理療法としては学習理論を応用した（s. ）を行うことが多い。
20. 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った際には（t. ）法を適用し、家庭裁判所の判断で適切な処遇を決定する。

Ⅱ．以下の設問について指定の字数で回答しなさい。

1. 心理相談機関において、未成年のクライアント（中学生）から、「心理カウンセリングを受けていることを親には言ってほしくない」と懇願された。本事例に対する対応方針とその根拠となる考え方（理由）について、300字以内で述べよ。
2. 心理面接の場面において、クライアントが面接者である心理職に対して「こんな相談をしても無駄だ」「あなたは全然わかっていない」などと攻撃的な言葉を投げかけることがある。このように心理職自身が感情の矛先となっている場面において、心理職としてどのような点に留意し、具体的にどのように対応することが求められるか、300字以内で述べよ。
3. 「うつ病の患者 200 名（男女 100 名ずつ）をランダムに振り分け、介入 A を実施する群（A 群）と介入 B を実施する群（B 群）に分けた。その後、介入前、介入後、介入後 6 か月後の 3 時点で「うつ病得点」を算出し、介入 A と介入 B の効果を比較した。まず、A 群と B 群が等質であることを確認するために、介入前のうつ病得点を用いて t 検定を実施し、両群に有意な差がないことを確認した。次に、介入 A と介入 B の効果を比較するために、群（A 群・B 群） $\times$ 時期（介入前・介入後・6 か月後）の被験者間要因（群） $\times$ 被験者内要因（時期）の混合二要因分散分析を行った。」この手続きの統計上および研究計画上の問題点と改善方法について 300 字以内で述べよ。
4. 精神科医療機関で入院患者に対して集団心理療法を行う際、実施前に留意すべき点や治療効果を上げるために配慮すべき点について 300 字以内で述べよ。

Ⅲ. 以下は『対人過敏傾向及び自己優先志向とインターネット依存の関連』（鈴木 雄大・坂本 真士・村中 昌紀・山川 樹・亀山 晶子・松浦 隆信（2023）心理学研究, 第 94 巻 第 3 号, pp. 247-253）に基づいて作成した資料である。本研究の目的と仮説と照らして, どのような結果が得られたと言えるか。分析結果に基づき 400～600 字で記述しなさい。

※問題本文は著作権上、web ページに掲載することができません。

出典を参考にしてください。

出典

『対人過敏傾向及び自己優先志向とインターネット依存の関連』（鈴木 雄大・坂本 真士・村中 昌紀・山川 樹・亀山 晶子・松浦 隆信（2023）心理学研究, 第 94 巻 第 3 号, pp.247-253）

※問題本文は著作権上、web ページに掲載することができません。

出典を参考にしてください。

出典

『対人過敏傾向及び自己優先志向とインターネット依存の関連』（鈴木 雄大・坂本 真士・村中 昌紀・山川 樹・亀山 晶子・松浦 隆信（2023）心理学研究, 第 94 巻 第 3 号, pp.247-253）

※問題本文は著作権上、web ページに掲載することができません。

出典を参考にしてください。

出典

『対人過敏傾向及び自己優先志向とインターネット依存の関連』（鈴木 雄大・坂本 真士・村中 昌紀・山川 樹・亀山 晶子・松浦 隆信（2023）心理学研究, 第 94 巻 第 3 号, pp.247-253）

※問題本文は著作権上、web ページに掲載することができません。

出典を参考にしてください。

出典

『対人過敏傾向及び自己優先志向とインターネット依存の関連』（鈴木 雄大・坂本 真士・村中 昌紀・山川 樹・亀山 晶子・松浦 隆信（2023）心理学研究, 第 94 巻 第 3 号, pp.247-253）

MEMO ご自由にお使いください。
